

令和3年度 学校評価総括表

斑鳩町立斑鳩西小学校

<p>教育目標</p>	<p>「心身ともに健康でたくましく生きる力を備えた子どもの育成」 本校の教育は、児童や地域の実態をふまえ、社会の発展に自ら対応できる知・徳・体の調和のとれた、健康で心優しく、たくましい児童の育成をめざす。信頼と協力を基調とし、全職員の創意と特性を生かして児童・教職員がともに生きがいと「和」を感じる学校づくりに努める。</p>			<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p>
<p>教育方針</p>	<p>斑鳩町は世界文化遺産の法隆寺をはじめ藤ノ木古墳など名所旧跡が多く、校区には西には三室山があり、南北に龍田川が流れる景色に包まれ、校舎から歴史を感じさせる風景を見ることが出来る。地域の方々には、読み聞かせ、学校安全ボランティア、学習支援ボランティア、その他地域行事等を通して学校を支援していただき、ともに力を合わせ、新たな校風と素晴らしい教育環境を築き上げてきている。 学校が果たすべき役割は、子どもたちの知・徳・体の調和のとれた人格形成をめざすことである。そのために、子どもの個性を尊重し、子どもの持つ可能性を最大限に引き出し、自己実現に向け適切な指導や支援を行う。また、新学習指導要領の趣旨に則り、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を通して児童に「生きる力」を育むことをめざす。 児童のめあて 「ひとにやさしく まわりにあいさつ わ(和)をたいせつにする りっぱな西っ子」を『ひ・ま・わ・り』の合い言葉で児童に知らせる。</p>			
<p>学校経営ビジョン</p>	<p>めざす学校像</p>	<p>めざす教師像</p>	<p>めざす児童像</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 笑顔あふれ、活気のある楽しい学校(動) ○ 落ち着いた秩序ある学校(静) ○ 安全で美しい学校(美) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の子どもを見つめ、厳しさと温かさで子どもの可能性を伸ばす教師 ○ 教育者の使命を自覚し、常に自ら学ぶ姿勢を持ち続ける教師 ○ 心身ともに健康で明るく、行動力があり人間性豊かな教師 ○ 社会的良識を備え、児童・保護者・地域社会の人々から信頼される教師 ○ 教えるプロとして教師力・授業力のある教師 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勉強大好き 進んで学ぶ子(知) ○ 友達大好き 心豊かな子(徳) ○ 運動大好き たくましい子(体) 	
<p>前年度の評価と課題</p>		<p>今年度の重点目標</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者アンケート結果では、学校の教育活動にほぼ満足していると答えた割合は、92.8%に及ぶ。その中でも「落ち着いた環境の中での学習指導の実施」(93.0%)や「基礎基本の学力を身に着ける指導」(89.7%)等にも高い支持が得られている。しかし「学校生活や登下校の安全」に関する項目ではほぼ満足していると答えた割合が75.7%と他の項目に比べ低く、保護者・地域の教育力を含めて課題として挙げられる。 ○ 不登校をはじめとした個々の児童の課題に対して関係機関との連携を進めることができた。ケース会議や校内委員会等を活用し、担任一人が児童が持つ問題を抱え込むことがないように、情報は迅速かつ共有することによって組織的に対応できるように努める。 ○ 教員や学校安全ボランティアの方に挨拶ができる児童は増えてきている。学校アンケートでは、「挨拶はしているか。」という問いに、児童並びに保護者は80%以上がしていると回答しているが、教員アンケートでは、半数近くの教員が物足りないと回答している。挨拶をする児童の増加が、児童・保護者・教員ともに感じられるような取組を進める必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領の趣旨に基づき、基礎・基本の学力の定着とともに、主体的で自ら学ぶ意欲を引き出す授業づくりを実践し、学力の向上を図る。 ○ 仲間や教員、地域の方々に気持ちよく挨拶ができる児童の育成を図る。また、挨拶とともに問いかけに対して返事のできる児童の育成をめざす。 ○ 不登校や配慮を要する児童等の児童理解を図り、個々が持つ課題を解決するために関係機関との連携を含め組織的な対応を行う。 ○ 教員が心身ともに健康で生き生きと職務に邁進できるように業務の見直しを進め、効果的で効率的な業務の構築を図る。 		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の学力の定着を図るとともに主体的に物事を考え伝える力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数科を主として、基本問題や反復練習等で基礎・基本の学力の定着を図る。また、授業の中に考える場面や自分の考えを伝える機会を設定していく。 ● 学習に関する児童アンケートで肯定的な評価80%以上をめざす。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科を今年度の研究教科に位置づけ、各学年で公開授業を行った。「教え込む授業」から「考える授業」への転換をめざし、発問の工夫や児童相互で解答を導くための「学び方」を見つける工夫を各学年で考え、実践することができた。 ・学力の2極化が学年が上がるにつれて顕著で、基本問題や反復練習等の効果的な実践方法の共通理解が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎となる「授業前の学習準備・話を聞く姿勢・発表の仕方・ノートの使い方」などの学習ルールの確立を研修部を中心に進めていく。 ・文章を読み解く力が重要であり、まずは、じっくり文章を読む習慣をつけるため、読み取ったことを言葉や文字に表す機会を授業の中に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ禍で、学校運営や教育活動が制限された中、基礎・基本の学力の定着と考え伝え合う取組を今後も継続することが求められる。
	家庭学習の習慣化を図り、主体的に取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の重要性を児童並びに保護者に啓発する。学習方法や学習時間の確保等の事例を紹介するとともに発展的な学習には賞賛し、意欲を高め、主体的な学習へとつなげる。 ● 家庭学習に関する保護者アンケートで肯定的な評価85%以上をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況等調査では、携帯電話等の使用について、家庭のルールができていないことやテレビゲーム等の視聴時間が長いことなど、家庭学習の時間確保につながる生活習慣に課題が見られる。 ・家庭学習に関する保護者アンケートで宿題や家庭学習等の習慣化に向けての指導ができていているという肯定的な評価は83%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間の確保の妨げになる生活状況は、全体の中では少ないものの定着しない児童の学力は不安定であることは明らかである。学年通信等を活用して、保護者に問題点を啓発するとともに、家庭学習で「自主学習ノート」等の意欲的な取組を児童に紹介する機会が多く持つようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の大切さを各ご家庭と共有する取組を今後も進めていく必要がある。感染症対策で、懇談会等の実施ができない点を補う工夫が必要ではないか。 ・なぜ定着しないのか、どこに問題があるかを検証することが必要。
心の教育の充実	仲間や地域の方々等、自分の周りで支えてくれる人々に感謝の気持ちを持ち、気持ちよく挨拶できる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校時に挨拶を奨励する委員会による「あいさつ運動」を展開し、挨拶することの意義を理解させるとともに習慣化につなげる。 ○ 学校だより・学年通信等を通して挨拶の習慣化について啓発を行う。 ● 挨拶に関する保護者・児童アンケートの結果で肯定的な回答90%をめざす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を奨励する委員会(ASO委員会)による正門前での「あいさつ運動」を定期的に行うことができた。委員会担当児童から挨拶されると挨拶で応答する児童は増加しており、交通安全ボランティアとの懇談会でも同様の感想が得られた。さらに主体的に自ら進んで挨拶を行う児童をもっと増やすことが課題である。 ・挨拶に関する保護者アンケートの結果で肯定的な回答は78%であった。児童アンケートの結果は84%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、「大きな声は出してはいけない。」と躊躇する児童が一定数いるが、今後も挨拶を奨励する委員会による「あいさつ運動」を活性化させるとともに、挨拶の励行を推進するために、家庭の協力を求め、学校だより・学年通信等を通して挨拶の習慣化や学校の取組について伝えることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を奨励することを引き続き行うことは大切だと思うが、挨拶に関する保護者や児童アンケートの結果から、「あいさつ運動」等の取組の頻度や行い方の検討がいる。 ・児童アンケートで、「困ったときに先生に相談していない」との回答が30%あり、この原因を分析する必要がある。 ・「考え議論する」ことを学ぶのは子どもの時だけでなく、生涯続くものだと認識している。
	仲間との関わりを大切に、思いやりの心を持った児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「特別の教科 道徳」や体験的活動等から道徳心につながる授業を実践し、児童の心を育む。 ○ 「ひ・ま・わ・り」を合言葉にオンライン集会・学校だより・学年通信等で児童により良い行動を啓発していく。 ● 保護者・児童アンケート結果で、思いやりに関する項目の肯定的な回答80%以上をめざす。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策で、体験的な活動等が大きく制限を受けた。集団で対話することや異学年集団での交流、学年での集会活動等、自己と他者のつながりを体感できる機会が確保できなかった。コロナ後には、「心をつなぐ」取組を充実させたい。 ・保護者アンケート結果において、思いやりに関する項目の肯定的な回答は92%と高い評価を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察に行くと「特別の教科 道徳」の授業を丁寧に実践している場面によく出会った。今後も「考え議論する」ことを念頭において児童の心を育む取組を進めていく。 ・コロナ禍では、オンラインでの全校集会が主となるが、合言葉「ひ・ま・わ・り」の認識をさらに広げるために、道徳の時間や特別活動等の学級での指導、また委員会による啓発活動に努める必要がある。 	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価		成果と課題（評価の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価
健康・体力・安全の充実	運動好きの児童を育成するとともに体力の向上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な運動を取り入れ、楽しく運動量のある授業を工夫することで、運動好きな児童を増やす。 ○ 体力・運動能力・運動習慣等調査の結果から児童の実態を明らかにし、授業改善を行う。 ● 「外で体を動かして遊んでいる」と回答する児童80%以上をめざす。 ● 体力・運動能力・運動習慣等調査の結果で奈良県平均以上をめざす。 	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年で体育科の教科担任制を導入した。保健体育科の免許状を所持する教員が担当し、教材研究を進め、コロナ禍での効果的な体育指導について、実技研修を開催する等、授業改善に努めることができた。 ・感染防止対策のため、身体的距離を2m以上確保することが求められ、運動のバリエーションが大きく制限された。楽しさの体感や多様な動きを身につけること、仲間とのふれ合い等、体育で本来学ぶべきことに取り組む難しさがあった。 ・保護者から見た外遊びの割合は、64%と非常に低い。コロナ禍で帰宅後はあまり遊んでいない状況である。 ・奈良県児童生徒の体力テストでは、6年生男子、女子とも体力合計点で県平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する子と運動しない子の2極化を解消するために、学校での体育科の授業並びに休み時間の過ごし方が大切になってくる。教員が休み時間に運動場に出て外遊びをするように促すこととともに児童と一緒に外遊びする雰囲気作りに努めていく。 ・当分の間、コロナ禍での生活が続くと思われるが、今後も児童が楽しみながら、体力向上につながる効果的な体育指導について、実技研修を開催し、授業改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、ソーシャルディスタンス確保の影響などもあり、子ども達の外遊び等の身体活動が減少している。今後も学校で、身体活動の活性化や体育の学習の充実に努める必要がある。 ・早くコロナ禍が終わり、子ども達には、不安なく外でのボール遊び等をしてほしいと思う。
教員の育成	新学習指導要領の趣旨を理解し、主体的対話的で深い学びのある授業実践を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数科を研修の柱とし、主体的対話的で深い学びをめざした授業づくりについて校内研修を行い、各学年1本の研究授業を実施する。 ● 校内巡回を定期的に行い、授業観察を通して、各教員の個々の課題を明らかにし、助言や指導を行う。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びをめざし、「算数を学ぶ楽しさや良さを感じられる子どもを育てる指導の在り方」について研修を進めた。各学年1本の研究授業を実施するとともに、研究協議では、「教え込む授業」から「考え学び合う授業」への転換について各自の取組や課題を話し合うことができた。 ・授業観察時には、感染予防に留意し、話し合い活動で「考え伝え合う学習」に取り組む場面が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して「考え学び合う授業」や「主体的対話的で深い学び」とはどのような授業をいうのかを共通認識の場を設定する。 ・教科書の内容を教えることに精一杯の若手教員ではあるが、授業公開を積極的に行おうという意欲が見られるので、今後も研修の機会としてだけではなく自主研修という位置づけでの授業公開の機会を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」をめざして、各学年の児童の実態に応じた研究を進めてもらいたい。 ・自主研修での授業公開をこれからも続けてもらいたい。
	若手教員の学級経営並びに学習指導に関する力量の向上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 管理職による定期的な授業観察を実施して、個々の指導上の課題を明確にし、自信を持って取り組めるように褒めて励まし、授業力の向上を図る。 ● 校内研修や授業の空き時間等を活用して他の教員の授業を参観することにより、自らの授業を振り返り、授業改善を図る。 ● 授業力の向上について、教員アンケートから肯定的な回答90%以上を目指す。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のために校内を消毒するため校内巡視の機会が多くあり、各学級の授業の様子をしっかりと見ることができた。若手教員に「板書・児童の姿勢・発言方法・教員の言葉がけ」等について、良い点を褒め、改善点を具体的に示すことができた。 ・高学年の教科担任制を取り入れたこともあり、体育科や社会科等、その教科に精通している教員の授業を他の教員が参観する機会が多く見られた。 ・教員アンケートでは、基礎学力を身につけさせる授業ができているとの回答が91%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習指導について、職員研修の機会だけでなく、管理職による授業観察の際にも、「授業者の立つ位置・見やすい板書例・児童の聞く姿勢・発言方法・授業者の言葉がけや賞賛」等について、具体例を挙げて理解できるような場を設定する。 ・授業の空き時間は、遠慮せずに互いの授業を見合う場とするように共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も若手教員のみならず、すべての方が研修の機会だけでなく、お互いに授業の進め方を検証する場を持つことを大切にしたい。 ・互いの授業を見合う場を継続してもらいたい。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	評価			成果と課題（評価の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価
校務分掌の 充実	生徒指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に生徒指導部会を実施し、児童の実態や家庭の様子など、気になる点を共有し、適切な指導につなげる。 ○ 職員会議や終礼等の時間を活用して、生徒指導案件の情報共有を実施し、状況に応じてケース会議を持つ。 ● 教員アンケートの項目に、「気になる児童を全職員で指導する」という項目で肯定的な回答を100%をめざす。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部長が積極的に職員会議等で生徒指導上で注意することを発言するように促した。今まで不定期だった生徒指導部会を定例化し、生徒指導案件の情報を共有することができた。 ・スクールソーシャルワーカーや行政機関の方々と連携し、学校だけで対処の難しい事案についてケース会議等を開催して課題解決に向けた取組を進めることができた。 ・教員アンケートで、「児童の間違った行動を全職員でしっかり指導する」という項目で肯定的な回答が96%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や家庭の様子等、生徒指導上で気になる点を生徒指導部会の場合だけでなく、職員終礼等の機会も活用して情報共有に努める。 ・虐待等の緊急性のある事柄については教育委員会と連絡を取り、関係機関とも連携して迅速に対応する。 ・日々の生活で起きた問題は、個人で抱え込まずに、組織的に早期に解決するように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を個人で抱え込まず、情報共有して、学校全体で対処するようにこれからも取り組んでほしい。 ・外部機関との連携は大切。
	学校施設・設備の管理を行き届かせ、より安全で過ごしやすい学校をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全で過ごしやすい学校となるように、学校環境の充実、校内安全点検、体育用具等の管理と点検を行う。 ● 教育環境に関するアンケート項目で肯定的な回答80%以上を目指す。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・正門前の木製ベンチや百葉箱、運動場の木製遊具等、老朽化した物を職員作業で撤去及び廃棄し、校内美化と校内施設の安全点検に努めた。また、体育用具で破損している物の修繕や廃棄を進めることができた。 ・保護者アンケートの結果では、教育環境が整っていると答えた割合が80%となっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で過ごしやすい学校をめざし、環境整備に必要な箇所を教育委員会に説明し整備を進める。教育予算や今後の児童数の動向など学校改善にかかる予算は非常に厳しい状況にあるが学校としての希望は伝え続けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も課題になっている登下校時の児童の安全面に関する保護者アンケートの結果について、安全面での懸案事項は引き続き改善に向けて粘り強く取り組む必要がある。
業務の改善	ワークライフバランスを意識した教職員の働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務分掌の精選を進め、業務を行う際の課題を明らかにし、効率の良い業務に改善する。 ○ 仕事の効率の向上に向けて、業務の目的をはっきりさせ、無駄な労力・時間の削減を進める。 ● 教職員アンケートにおいて、働き方改革の項目で肯定的な回答90%以上をめざす。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の効率化と感染症対策のため、職員会議等、職員が一堂に集まる時間の短縮に努めた。会議案件は事前にWEB上に議案を掲載し閲覧することとし、会議中は提案等を簡潔に述べるようにすることで、時間短縮を図ることができ、その後の教材研究等の時間に活用することができた。 ・週に1回NO残業デーを設定し、定時退勤の取組を進めた。今後も職員の勤務時間の適正化に向けた意識の向上に努めたい。 ・教職員アンケートにおいて、働き方改革の項目で肯定的な回答は82%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も会議等の開催回数が妥当かどうか検討を続けるとともに、会議時間の短縮を職員が意識できるように啓発に努める。 ・帰宅する時間がこれまでより早くなってきたが、業務量の削減をさらに進める必要がある。コロナ禍で学校行事が減ったことによる部分が大きい。学校行事の精選を行い業務改善を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の終息が見えてこない環境下、学校運営にご尽力されている。円滑な学校運営のため、業務の効率化にこれからも取組を進めてほしい。 ・社会全般で業務改善を進めているので、教育現場も同様に進めていくことが求められている。